

ドクター板東の メデイカルリサーチ Vol. 133

～リオの風 楽しむライフ 音楽で～

<http://pianomed-mr.jp/>

2016年はオリンピック
ク年。ブラジルのリオで五
輪とパラリンピックが夏に
開催された後、秋に国際学
会が開催された。

私はプライマリ・ケア医
学や家庭医療学を専攻し
ており、この世界的組織が、
世界家庭医学会(WONCA
A)である。数年毎に世界
大会が開催されており、今
回リオで87カ国以上、
5000人以上が参集し
た。今回はこの話題につい
て触れてみたい。

WONCA

私は今まで世界各地の
WONCAに参加。今回の
リオ大会にも1年前から
申込みをしていた(図1)。

組織委員会とずっとメー
ルのやり取りを続け、感じ
たことがある程度は予想
していたのだが、何とも対
応が遅く、回答が的確でな
いため、なかなか話が進ん
でいかない。

現地に到着して、ようや
くわかった。当国の気候は
暖かく、ラテン諸国の空気
や雰囲気醸し出される。



図1

誰もが好きな音楽のリ
ズムに合わせ、身体を揺す
り雑談しながら仕事をし
ているようだ。会場の国際
会議場は驚くほど広く、
約100m四方の建物が6つも
集まっていた(図2)。



図2

ヤンヤの喝采

進めてほしいと思う。ただ、
せつかく遠路はるばるここ
までやって来たので、「郷に
入りては郷に従え」、ブラ
ジルのおおらかな文化を楽
しむこととしよう。

開会式には数千人が出
席し、驚いたことが(図3)。
本学会の重鎮6名が登壇
するたびに、サッカーで得
点したとき「ゴール」と
絶叫するように、大いに盛
り上がるのである。



図3

また、ビートが効く音楽
がよい。音を楽しみ、身体
で感じ、皆がハッピーな気
分になれるからだ。
一方、少し困ったことも
あった。ヤンヤの喝采で会
の進行が大幅に遅れ、主賓
のWHOの先生の講演の際
(図4)、聴衆がどっと退出
してしまうことに。最後ま
でお聴きしてから隣の会
場に行く、すでに懇親会
は最高潮に達しており、料
理は「麦の雑炊」だけしか
残っていなかった。

糖質制限

今回私が行う仕事は3つ。まず「糖質制限食」で2000例以上の臨床経験を発表した(図5)。今までのポスター発表では、各自が印刷したポスターを学会会場まで持ってくるものだ。一方、今回はデータをあらかじめ学会事務局にメールで送付しておく、電子ポスター発表となる。

ピアノでプレゼン

次に、文化講演会的な企



図4

画として「ピアノ演奏と音楽療法」のレクチャーを担当。クラシックやポピュラー、ジャズの各曲を演奏しながら、音楽がどのように我々の心に働きかけるのか、解説した。

図6は、誰もが知る行進曲として、メンデルスゾーンの結婚行進曲、シューベルトの軍隊行進曲、モーツァルトのトルコ行進曲、ショパンの葬送行進曲など、エピソードを解説し演奏しているところである。

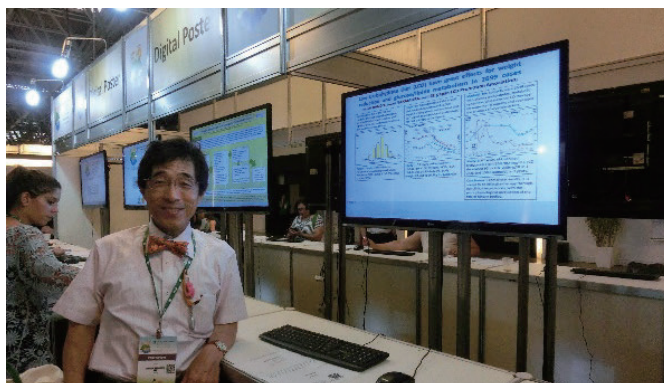


図5

3番目は、スペインの家庭医 Vilaseca 先生が歌うオペラ歌曲の伴奏を担当した。5曲を披露し、その中でもスペイン歌曲で広く知られる「グラナダ」は万雷の拍手で迎えられた。

イベロ・アメリカ

ここで言語と文化について考えたい。ブラジルはポルトガル語が、それ以外の南米諸国はスペイン語が使われている。その理由は、両国



図6

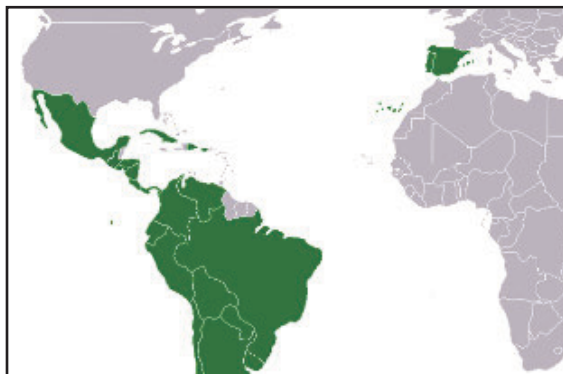


図7

の植民地だったからだ。

両国はヨーロッパのイベリア半島に位置し、英語では Iberian Peninsula、スペイン語・ポルトガル語では Peninsula Iberica と表記される(図7)。すなわち、イベリア半島と中南米の国々で文化圏が類似しており、Ibero-american の W O N C A 大会が開催されてきた。

芸術や音楽には共通点が多い。アートでは、仮面や彫刻などで原色を使い、陽気または怖い雰囲気などが醸し出される。音楽では、各国でリズムカルなリズム



図8

で身体を揺らし、カーニバルで皆が踊る遺伝子が受け継がれてきている様子だ。リオで唯二サンバを楽しむ劇場(図8)は、静止画も動画も何でもOKで、広く宣伝してほしいと。

今回ブラジルで、人々の心の中に存在する音楽のパワーと効用に触れた。リズムミカルで軽しい人生観も併せ、ハッピーに逞しく生きていくようだ。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアノスト)